

第2号様式(第12条関係)

令和7年度第1回大和市街づくり推進会議 会議要旨

1 日時 令和7年5月20日(火) 13時30分から15時30分まで

2 場所 本庁舎 5階 全員協議会室

3 出席者 9名

4 傍聴人数 0名

5 報告

- (1) 今年度の予定について
- (2) 街づくり推進会議の役割について
- (3) 街づくり推進会議・分科会について
- (4) 大和市屋外広告物条例施行規則の一部改正について
- (5) 大和駅周辺官民連携まちづくりについて

6 その他

【会議資料】

・次第

・資料1 令和7年度大和市街づくり推進会議の予定

・資料2 街づくり推進会議の役割について

・資料3-1 街づくり推進会議・分科会について

・資料3-2 大和市街づくり推進会議規則

・資料4 大和市屋外広告物条例施行規則の一部改正について

・資料5-1 「大和駅周辺の“これから”」(大和駅周辺官民連携まちづくりについて)

・資料5-1 補足①,② 官民連携まちなか再生推進事業説明資料

・資料5-2 大和駅周辺官民連携まちづくり ロードマップ

・大和市街づくり推進会議 第14期 委員一覧

・大和都市計画図

・大和市屋外広告物条例のあらまし

・大和市の景観づくり(大和市景観計画および大和市景観条例のあらまし)(会場での閲覧のみ)

・大和市みんなの街づくり条例ガイドブック(会場での閲覧のみ)

・都市計画マスタープラン(会場での閲覧のみ)

■令和7年度 第1回 大和市街づくり推進会議 会議録■

〔会議名称〕 令和7年度 第1回 大和市街づくり推進会議

〔開催日時〕 令和7年5月20日（火）13時30分から15時30分

〔開催場所〕 本庁舎 5階 全員協議会室

〔出席委員〕 9名（欠席：2名）

〔出席〕 杉崎 和久／三浦 由理／河村 奨／小幡 剛志／大峰 英一／
栗山 隆太／星野 澄佳／松本 あゆみ／佐藤 知明

〔欠席〕 黒石 いずみ／ホーテス・シュテファン

〔事務局〕 13名（まちづくり部長、まちづくり推進課長、まちづくり推進課まちづくり推進係3名、
まちづくり推進課市街地整備係2名、まちづくり総務課長、まちづくり総務課まちづくり
政策係3名、建築指導課建築指導係2名）

〔担当課〕 まちづくり部 まちづくり推進課 TEL.046-260-5483

〔傍聴者〕 0名

〔公開の状況〕 公開

I. 会議次第

1. 開会

2. 市長あいさつ

3. 委員紹介

4. 会長及び会長職務代理の選出

5. 報告

- （1）今年度の予定について
- （2）街づくり推進会議の役割について
- （3）街づくり推進会議・分科会について
- （4）大和市屋外広告物条例施行規則の一部改正について
- （5）大和駅周辺官民連携まちづくりについて

6. その他

7. 閉会

Ⅱ. 内容

1. 開会

2. 市長あいさつ

3. 委員紹介

4. 会長及び会長職務代理の選出

大和市街づくり推進会議規則第5条の規定に基づき会長を互選
引き続き杉崎委員を推薦、全会一致で会長を杉崎和久委員に決定
会長より会長職務代理として、黒石いずみ委員を指名
[会長あいさつ後、各委員より簡単な自己紹介]

5. 報告

(1) 今年度の予定について

事務局より、今年度の街づくり推進会議のスケジュールについての予定を説明。

質疑応答(○…委員 ▼…市)

○: 今年度、まちづくり賞のような主な議題はなく、その都度必要な議題が出てきたら対応することで良いか。そのうえで、現時点では景観条例の活用について議題を検討しているとのことだが、この議題は、具体的にはどのような内容を考えているのか。また、既存の条例をもっと活用できないかという観点で積極的な議論をしたいのか、それとも条例を変えたいなど、今大和市としてはどのように考えているのか。

▼: 提示できる具体的な方針はまだ無いが、今後のまちづくりに生かしたものができるように、既存の条例の活用について意見を伺いたいと考えている。

○: 承知した。あとは、以前に大和市みんなの街づくり条例の見直しを議題として取り上げていたが、基となる総合計画に改定の動きがあるため、その結果を待つということになっていたと記憶している。これに関する議題とするのも良いかと思う。それと、第三者評価のような案件は今年度予定していないということで良いか。

▼: そのとおりである。

○: 承知した。例年、ウェイトのある議題が始めから予定されていることが多いが、今年度は若干余裕があるように感じる。逆に言えば、例年タイトでできていないような議題を議論するチャンスでもあるかもしれない。

(2) 街づくり推進会議の役割について

事務局より、街づくり推進会議の役割について説明。

質疑応答(○…委員 ▼…市)

○: 街づくり推進会議とは、大和市みんなの街づくり条例に係る議論をするための場だというのが第一の存在意義としてある。「まちづくり」と言っても様々な意味があり、「街(がいはい)」の付く「街づくり」というのは、土地の使い方や建物の建て方、街の空間をどのように作っていくかといった、いわばハードの部分を指しているため、そのあたりが議論の中心になる。都市計画法に基づく都市計画に関しては、都市計画審議会という審議会でも議論され、比較的、行政が決めて動かしていく性質のものであるが、「地域の空間」は、行政主導の都市計画だけでなく、つ

きみ野のような身近な地域の人達が主体的になりながら、「こういうまちにしていこう」、「そのためにこういうルールを決めていこう」というような取り組みと昨今は一緒に作っていくものと考えられている。これを踏まえて、地域の人達の主体的になる部分が位置付けられたのが、大和市独自の仕組みである大和市みんなの街づくり条例であり、その議論をする場が街づくり推進会議だと認識している。他に景観や屋外広告物に関することを含めて、まちづくりに係る様々なことを議論する場となっている。また、地域、住民、市民がまちづくりにどのように関わっていくかという観点の議論が多いことから、市民の立場からの意見を大事にするため、市民委員の方、つきみ野まちづくり委員会の代表者が委員として構成されている。その他にも、昨今はこの会議の役割も広がり、景観や屋外広告物の話は市民的な意見も大事である一方で、専門的な見地も必要になってくることから、不動産業界の方、屋外広告物業界の方、建築業界の方、さらに都市計画のコンサルの方といった専門家の方々が入られて、市民の意見とバランスを取りながら議論をするという構成になっている。

基本的には市民の立場に立った議論を心がけているが、専門的な判断が必要になる場面であっても市民委員の方は臆さずにご意見いただきたい。専門的な委員の方もご自身の経験を十全に活かしていただきたいと思っている。市民的なものから専門的なものまで、幅広い議題がある会議であることを認識していただければと思う。

(3) 街づくり推進会議・分科会について

事務局より、大和市街づくり推進会議 分科会委員指名について説明。

質疑応答(○…委員 ▼…市)

○:この報告の主旨は、令和7年4月1日付けで2人の専門委員の方に引き続き委嘱をしたという報告で良いか。

▼:そのとおりである。

○:承知した。過去の会議でも、分科会の仕組みについて、何度か説明を受けている。先程述べたうちの専門性が高い議題の一つである。他の自治体では、例えば「景観」のくくりで独自に審議会を設けていることもあるが、大和市の場合は、この会議がまちづくりに係る広範な内容を引き受けている。この分科会の内容もこれに含まれるということになっている。

(4) 大和市屋外広告物条例施行規則の一部改正について

事務局より、大和市屋外広告物条例施行規則の一部改正について、前回の審議後の経過や前回の審議でいただいたご意見を説明

質疑応答(○…委員 ▼…市)

○:これまでの報告事項1から4について、質問等のある委員はいるか。この場で質問がなくても、後日追加で質問があれば事務局に連絡しても構わないが、この場で質問があれば内容を皆ですぐ共有できるがどうか。

○:資料3-1のまちづくり推進会議・分科会について、専門委員は2人いるが、我々と関わる機会はどのような時にあるのか。何か関わるのであれば、顔を合わせる機会があった方が良かったと思った。どのような関係性なのか、以前の会議でも説明はあったと思うが、改めて教えていただきたい。

▼:基本的に、専門委員の方も街づくり推進会議委員の一員という位置付けになっている。分科会が開かれることになった時に、この場の委員の方の中から分科会の委員を会長に指名していただく。指名を受けた委員の方と、

専門委員の方を含めて約5名で、この分科会の扱う内容である中央森林東側地区の建築の認定に関する事務を執り行うという流れになる。

○:街づくり推進会議の委員から何人か指名を受け、そこへ都市計画審議会の専門家として入っている委員の方に加わっていただくという形のため、この会議への報告は会長がするという形であることから交流はない。専門委員の方々がこの会議で自己紹介を行うなどは想定されていない。

○:承知した。

○:この会議に専門委員の2人が参加されることは無いということか。

○:そのとおりである。

(5) 大和駅周辺官民連携まちづくりについて

事務局より、大和駅周辺官民連携まちづくりについて説明

質疑応答(○…委員 ▼…市)

○:この報告事項は、意見があれば言って欲しいということで良いか。

▼:そのとおりである。現時点における、今後の進め方について、資料5-2の「ロードマップ」に示しているが、「こういう場もあった方が良いのではないか」といったような意見をいただければと思う。

○:承知した。

▼:ビジョンを作成するにあたり、まちづくりの方向性、エリアプラットフォームに参加した方が良いと思われる方、組織の在り方や進め方についても意見を伺えればと思う。

○:報告事項2の街づくり推進会議の役割のところでお話のとおり、この会議はまちづくりに関わる様々な専門性を持った方と市民の方で構成されていることで、今回のこの大和市の取り組みについても、多様な立場から意見や助言が求められていると思う。かなりボリュームのある話なので質問や、場合によっては提案やアイデアがあるかもしれない。順不同で、個別に意見を伺いたいかどうか。

○:大和駅周辺あるいは大和市をどのようなまちにしていきたいのかという所が全く見えない。例えば、川崎市は音楽を中心にしたまちづくり、横浜市は創造都市でアートを中心とするまちづくりをするなど、コアをもっている。目標が見えない中、人だけが集められ、会議の場だけが設定されている。本来はこういうまちづくりがしたいと議論をして、まちづくりをするためにどんな人達・場・プロセスが必要なのか検討していく必要がある。そのうえで、比較的国の予算を取りやすい社会実験や機運醸成といったもので得られたものを活かしていくためにも目標が必要になる。社会実験でも最初のビジョンがないと、実施するだけで終わってしまう。機運醸成でどういう機運を市民に訴えていくのかというプロモーションもできないのではないかなと思う。大和駅周辺でどのようなまちを目指すのか。様々な強みを持っている人をどのように今回のプラットフォームに加えていくのかという議論がこの会議の中でもできれば良いのではないかな。

▼:今回の取り組みでは、本市が作成したビジョンに基づいてプロジェクトチームを結成するのではなく、まず目指すべきまちの姿である未来ビジョンについて議論を始めたいと考えている。大和駅周辺に関わる方々を集め、本市も参画しながら、大和駅周辺をどのようにしていきたいのかを決定することからスタートする。今年度中には目指すべき姿のたたき台を作成し、令和8年度末までに大和駅周辺のビジョンを確立したいと考えている。本市としての方向性はあるが、この会議の中で目指すべきまちや取り組みについて議論を進めていきたい。

○:他の委員の方、どうか。

○：つきみ野まちづくり委員会も将来的にはエリアマネジメントができるような組織になると良いと思っている。私も大和市に住む中で、大和駅は無味乾燥な感じがあり、相鉄は潜った、シリウスはできた、公園は綺麗になったと言っても何か意図があって今のまちになったわけではないように感じる。広大なスペースができて、にぎわいが生まれていない。下北沢などの事例は、それなりの背景があってできているまちだと思う。先程委員から話があった観点から、大和市の地域資源は、厚木飛行場だと思う。米軍に関する企画ができれば、他所のまちにはないものができるのではないかと。大和市が二子玉川や下北沢になるわけでもないが、米軍も巻き込むことができれば、色々な提案や大和らしさというところでは他所でやってないようなことができると思う。

○：私は最初の委員の意見に近い。大和市が方針等を示したから皆が従うわけではないので、市民の意見も聞きながら進める。例えば総合計画や都市計画マスタープランがある中で、大和駅周辺の地域をどのように認識しているのか、何が課題で、どのように位置づけているのか。課題や方針等を踏まえて、市民がプラットフォームの事業に手を挙げることだと思う。何も方針がない中で国の事業に手を挙げるということはないのではないかと。つまり、「どのようなまちにしたいから、一緒に考えませんか」といったものがないと、市民ものってこないのではないかと。全く無策で市民の言われたとおりにやりますと言うように聞こえるが、国の補助金を取るということは、やはり何らかのまち、大和市として政策的な位置付けや課題があるから、この事業を実施するという理由をもとに国の補助金に手を挙げるのではないかと。

▼：そのとおりである。

○：そのあたりが具体的にはあるのか。

▼：過去十数年にわたり、シリウスやポラリス、やまと公園、ゆとりの森などの拠点整備に力を入れてきたが、それらがうまく繋がっていないこと、本市の中心として大和駅周辺を昼間も夜もにぎわいがあるまちにできないかというところが、大きな課題だと捉えている。本市としてもこのままではいけないと思い、大和駅周辺に係る様々な方の意見を聴いている段階である。現段階で本市のまちづくりとして、目指すべきビジョンは「にぎわいを創出したい」という思いはある。また、「つながり」という観点で、「つながり」を持ったにぎわいが一過性のものではなく、継続的に進められるようなものにしていきたいと思っている。これを実現するために官民で協力して進められる組織を作りたいと思い進み始めた。今までの本市で実施してきたまちづくりとは、異なる取り組みであると認識しており、試行錯誤の段階である。様々な意見を活かしていきたいと考えている。

○：承知した。今のコメント以上のものは無いということが分かった。

○：国の補助金を取得するため、プロポーザルを実施していると思うが、できればそれを開示していただけると分かりやすいかなと思う。今回、どのような提案をして機運醸成や社会実証への補助金を取得していこうとしているのかということをこの会議に開示していただければと思う。

○：大和市は図書館をプラットフォームにした「図書館をお城に見立てた城下町づくり」というイメージが強いが、未来ビジョンではこの「図書館城下町」を使用しないのか。シリウスの図書館は高速道路の横断幕にも登場し、多くの人が一度行ってみたいと思う図書館である。過去に読んだ文献では、図書館を中心に発展したことにより周辺の商店の売り上げが上昇した事例が紹介されており、これを発展させる観点から、実証実験の目標を市民が理解し意見を言えるようになることとよい。また、「円」や「個」などの数値化しきれない KPI のような指標で、例えば「市民一人一人が意見を言える」も含む目標も考慮しても良いのではないかと。未来ビジョンを作成する際に、図書館を大和市としてどう位置づけるのか、図書館城下町を経て大和駅のプロムナードを活性化させるなど、前提をわかりやすくしてほしい。

▼：「図書館城下町」は以前の施策として挙げたものである。政策の変化に伴い、様々な方針が見直される中で、フ

レーズとして「図書館城下町」を使用していないが、図書館に力を入れていないわけではない。シリウスは集客がある施設であり、にぎわいの源となっている図書館だと思っている。しかし、シリウスに来る人々が大和駅から図書館に向かう際、商店や個店に寄らないことが課題である捉えている。地域の方々もこの点を改善したいと考えていると認識しているため、大和駅をターゲットにした未来ビジョンの作成を進めていきたいと考えている。

○:「図書館城下町」というフレーズは今の施策ではないため、大和市としては使わないが当然シリウスは貴重な資源のため、シリウスを関係させずにまちづくりをやるということはないということで良いか。

▼:そのとおりである。

○:大和駅周辺はシリウスを中心としたイメージが強いが、周辺地域の治安が悪いイメージと図書館の綺麗なイメージとが噛み合っていないところもある。また、駅から図書館に向かう道の店が背を向いているため、上手く盛り上がっていない点は、大和市の方も課題だと思っているのではないかとはいえ、図書館城下町は以前の施策から、ワードを使用しないことになると、市民としては一貫性がなくなってしまうと思う。

○:あくまでキーワードとして使わないというだけではないのか。

▼:そのとおりである。

○:実際にシリウスは賑わっているので以前の施策等に関係なく、シリウスはまちづくりに活かしていくということだと思う。

○:承知した。

○:今の話について、大和駅周辺に居住していない市民からすると、大和駅にどのような時に訪れるのかと言うと、シリウスに行くか、公園に行く時くらいしかないと感じる。それをもう少しにぎわいとして、今の図書館の機能を活かしながらまちづくりをするということだとは思いますが、市民の意見等を聞きながら未来ビジョンを作っていくということで良いか。また、米軍も一つの素材として使えるのではないかと思います。

○:この会議で議論するという話ではなく、市民の方が参加できる別の会議体を設置して、ぜひ市民の方も参加してくださいという呼びかけでもあるが、もう少し大和市の方に説明していただいても良いか。

▼:これまでの委託調査から人流データや人の動きが分析されており、シリウスに行く割合が高いことが確認されており、シリウス周辺に立ち寄らずに帰る人が多いこともデータで明らかになっている。大和駅周辺ではやまと公園を効果的に活用する必要があるとの課題認識があり、様々な意見を聴いている。街づくり推進会議に全てを委ねるのではなく、会長が述べたように、今後開催する予定であるオープン会議にも参加していただき、意見をいただきたいと考えている。大和駅周辺地域で生活をしている方、生業を営んでいる方々の意見も聴きながら、良いものを作るために努力している。興味を持っていただけたら幸いである。

○:資料5-2ロードマップの「地元会議の運営支援」とは、地域の様々な関係者の人が濃密に比較的閉じて議論をするのか。それで「オープン会議」という誰でも興味のある方が参加できる会議をする。会議の開催数が若干少ないような感じもするが、今の企画段階では時々あるという理解で良いか。

▼:そのとおりである。準備会のコアメンバーの方々は、実際に大和駅周辺のにぎわいに影響してくる商店会の方々になってくると思うが、そういった方々の承認を得るのが準備会となる。ただ、その方々だけではより良いものを作っていくのは難しいので、そこを作っていく過程の中で、このような開かれた場を設けさせていただいており、現時点ではこの開催回数を予定している。これはあくまでも現時点での想定である。

○:資料5-2ロードマップを見ると、7月に早速オープン会議の開催予定であるということか。内容は、興味のある方が参加して、ワークショップのようなことを行う予定ということで良いか。

▼:そのとおりである。「シリウスという拠点を活かす」というところと、プロムナードについては本市の後援がないと

なかなかイベントができない状況であるため、プロムナード、やまと公園といった公共空間を広く活用できるような仕組み作りも今後検討していきたい。その中で、需要や意向があるかというところも含めて、その会議の場で議論していければと思う。

○：資料に「まちづくり会社」とあるが、最終的に大和市と別に何か法人を作っていくということなのか。

▼：先程の資料については、国が補助金のメニューの活用について作成した資料である。この事業におけるエリアプラットフォームについては、まちづくりの将来像を明確にした未来ビジョンを作成し、ビジョンに基づき活動をして、最終的には都市再生推進法人などとなって自走していくのが理想である。ただ、あくまでも理想であって、各市、各地域によってその状況は違うので、組織の在り方は一概に法人を目指していくというものではないと考えている。

○：図書館城下町というキーワードは使用されなくなったということを聞いて、今の施策の方向性があり、そこを中心に進んでいくと思うが、冒頭、市長がご挨拶の中で、「健康都市」について話されていた。どのようにシリウスと繋げていくのか、もしくは繋げないのか、「健幸都市」だけ聞くと、プロムナードで運動会をやったら良いと思う。また、「提案を出してください」と言われた時に、軸がないことには大変なのではないかという印象がある。先程、下北沢の話が少し出たが、以前、私は下北沢に居住していたので生まれる前から駅前の再開発等の問題が地元の人達が大喧嘩するような形でやっていたことを覚えている。この場合は市民側からの突き上げと鉄道会社との闘いで、後からそのサポートをする形で行政が来たことで、だいぶ状況が違ったと思う。そうすると、今回、戦うこと、戦わないこと、どちらが良いか少し知りたいと思った。おそらく今の時点ではないということなのだろうとは思いますが、今後必要になるのではないかと考えた。

▼：市長の挨拶にもあったが、本市として税金を上げていきたいという視点からは、中心市街地である大和駅周辺において、マンション建設が進む中で、企業や商店を誘致など、昼間人口を増やす仕掛けも必要だと考えている。駅周辺のにぎわいを創出することで市民が愛着を持てる場所として、「健幸都市」を目指すこともあると思う。未来ビジョンの中で、このようなことを描きながら昼間人口を増やすための施策についても並行して検討していく必要があると考えている。

▼：横浜市瀬谷区上瀬谷の花博後の国際的なテーマパークが計画されている中で、どうしたらテーマパークに来た方々が大和駅に降りてもらえるか。交通の利便性が良いということで通過するのではなく、何か魅力がないと降りてくれないという危機感を持っている。大和駅をテーマパークに来た方々から見ても良いところにしていきたいといったところは、この事業が立ち上がってきた理由の一つとなっていると思う。今後、上瀬谷で行われる開発に対して、大和駅周辺も見てみるだけではなく積極的に仕掛けていく必要があり、何か、魅力のあるまちにしていきたいということで、現在、取り組んでいるところである。

○：「外を見ている」という感じか。

▼：外を見ているというよりは、テーマパークにせっかく人が来るから、本市にも寄ってもらうことで、お金を落としてもらうことも考えても良いのではということである。あとは、テーマパーク等があれば、勤める方もいるので、そのような方に住んでもらえる、住む場所として選んでもらえるようなまちになるということでもあるのかなと思う。

○：外というか、隣接しているので、実質、大和が最寄り駅になるということだと思う。これからスタートする段階だとは思っているので、まだ発言がない委員の方も、感想でも良いので、一言ずついただいても良いか。

○：商工会議所や商工業等も、上瀬谷は花博やテーマパークがあるから関係を持たせないともったいないという意見がある。今からでも少し遅いくらいだが、繋がりを持たせていく必要がある。都市計画道路の三ツ境下草柳線の整備を進めると、瀬谷へのアクセスが良くなるため、瀬谷との繋がりを考えるならば本気で進めてほしいと思う。

早く多角的に事業を進めないと中途半端になり、後の祭りになってしまう。この道路について横浜市と話を進めた方が、瀬谷との連携に活かしやすいのではないかと感じる。花博を開催した時に相鉄線瀬谷駅だけで人が乗降するのは、危ない話なので、周辺の駅に乗降させる考えはとても良い。そこをもっと連携させて、まちの魅力を出していくようにする上で、今まで商工業の方に目を向けてなかったところをどうにか巻き込みたいと感じる未来会議だと思う。

○：他の委員の方はどうか。

○：大和市の行政運営は難しいのではないかと感じる。同じ市内でも南北に長いため、中央林間・つきみ野と高座渋谷ではまちの様子が全く違う。かつ、狭い市域に駅が8つあり、いわゆる駅近物件が多い。市内に移り住んでくる人達の勤務先がほとんど市内ではないが、住まいを求めてくる人達が感じる大和市の魅力は、横浜より家賃が安いことや交通の利便性が良いなど、インフラによる理由がとて多い。長年不動産業をしているが、大和市に魅力を感じて住みたいと来る方は残念ながらあまり感じない。相鉄線、小田急線、東急田園都市線が走っている点に恵まれているから人口が増えている。交通の便が良いことは一つの魅力だと思う。

○：大和市全体の話もあるが、大和駅周辺というエリアについてお話しただけないか。

○：承知した。かつてリクルートの「SUUMO」による講演会で、大和市に入ってくる人が魅力に感じる理由の2位が図書館であり、住んでいる人にとっても同様だという説明を受けた。加えて、住んでいる人が魅力に感じていることの2位も図書館であった。先程から出ているように、図書館は良くも悪くも非常に大和市の顔になっているので、「図書館城下町」という言葉を使わない手は無いと思う。客観的にも主観的にもデータとして出ている以上、大和駅という大和市の顔という意味では、本当に「図書館」なのかなと思う。

○：図書館を柱にしていくことは間違いないと思う。言葉として「図書館城下町」を使用しないという話と、図書館も含めて相鉄の地上部、行政が管理している土地がたくさんあり、何とかしたいという話がある。権利関係が複雑なことも多いので難しいが、本当は商店街や民間の土地利用のところまで踏み込めるかというところが私は肝だと思っている。こうした観点からどうか。

○：何をもちまづくりを成功とするか、いわば隠れ目標みたいなものは大和市にあるのか。例えば、人口増加を成功の指標とする場合、「5年後に何%増えれば成功」といった目標はあるのか。

▼：現時点では具体的な目標値はないが、人口減少社会の中で最低限人口を維持したいという意識はある。今の行政サービスを維持するためには、現在の人口を維持する必要がある。大和駅周辺、特にシリウスを拠点に魅力のある大和駅周辺を作ることで、選んでもらえる街にしていきたいと思う。

○：シリウスまで行く相鉄線上のプロムナード部分が一番手を付けやすいと思う。他の行政で成功している事例等を見ると、食べ歩きができるような道や、その道に外国人観光客を呼び込む事例もある。外国人観光客を呼び込めれば成功なのかという問題もあると思うが、「大和」という駅に特化して考えれば、一番活かしやすいのではないかと感じる。権利関係が複雑なところをまとめ上げる力は行政にしかできないかなと感じる。

○：承知した。その他、感想やアドバイスでも良いがあるか。

○：先程、まちづくりの成功や隠れ目標はあるのかという話があった。シリウスはいつ壊して、いつメンテナンスしてという考えなのか。また、その計画はあるのか。シリウスがなくなったとしても、何らかの維持を考えた時に、委員の方が「食べ歩きの空間」と言っていたが、今までもプロムナードは、骨董市の開催、野菜の販売はしている。「点と点」、「線そして繋がっていない」というのがよくわかっていなかった。鉄道を活かした、図書館や大和市内の公共施設でのイベントもあると大和市の方は言っていたが、それはつながらなくても良いのではないかと先程は思っ

ていた。今の話だと、周りの商店などにつながるという解釈が良いこと、人が変わったとしても、人の心がその時のテーマでつながるように動けば良いのかなと思った。あとは、前回の会議でも発言したが、エネルギーのことがあまり考えられていないと感じる。自然に循環するものになるべく使うなどして欲しい。大和だからできそうなこと、アイデアや人が来て、この街づくり推進会議ができた起因でもあった盛んな市民活動といった大和らしいものがあつたら良いと思う。

○：シリウスまでつながる相鉄の上のスペースの有効活用については、そこが賑わうことにより、逆に周りの商店街が廃れてしまう可能性もある。新しい道路が通り、人の流れが変わることで、取り残されるものが出てくるので、一概にプロムナードの有効活用をすればよいと言えるのかと思う。賑わいを求めることで周りが辛くなるのではないかと感じている。

○：シリウスに多くの人が集まるがプロムナードもあまり楽しくない、買い物や食事をして帰るようなことも行われていない。周辺を回遊させるなど、長時間大和駅周辺に滞在できるようなことができれば良い。その場所が店やプロムナードであれば、「誰がプロムナードににぎわいを作るのか」となる。何かそこでやりたいことがある人探そうというようなイメージだろうか。シリウスには既に人は来ているが、逃しているという認識なのだと思う。

▼：プロムナードを挟んで北と南に通りがあり、プロムナードだけがにぎわうのではなく、既存の通りの個性を活かす仕掛けづくりが必要だと考えている。プロムナードが常ににぎやかであれば良いわけではなく、元々の商店の方々の意見も重要であり、元々の通りをどう活かしていくかを考えながら進める必要がある。商店会の会長などから意見を聞き、それぞれの通りの課題を理解し、一つずつクリアできれば良いと思っている。

○：そのあたりも課題であり、本当は地域からもう少し「まちづくりやっていきたいから行政応援してよ」という動きがあることが理想であるが、実際は行政が仕掛けていかざるを得ないという辛さもあるのではないかと。

○：図書館という機能だけではなく、街づくり推進会議ができることは景観形成の重点地区を指定し、それを中心にしたまちの広がりみたいなことを考えたら良いのではないかと。推進会議では景観形成重点地区指定を受けるべきなのか、形成方針はどうすべきなのかなどを議論できる。事例で言えば、小田原駅周辺と小田原城周辺は景観形成重点地区を指定したが、最初は厳しい状況であった。小田原城も観光客はいるが、今一つにぎわっていない状況であったから、大和市も同じような所があるから参考にできるのではないかと。

○：まずはその土壌を作り、推進会議に提案していただければ、議論ができるということか。「歩きたくなる」ということは、「まちなみ」や「景観」は大事な要素であり、「大和の雑然とした感じが好き」という人もいるかもしれないが、その在り方の話になっていくのではないかと。今日はいきなり情報量が多かったが、たまにこの話題も会議に出てくるとのことだ。また、この会議とは別に意見交換の場が設定されていると思うので、事務局を通じて「今度こういうワークショップを行うのでぜひ参加してください」と周知してほしい。「キックオフ」として楽しみにしているが、民間の担い手がどこまで見えているのかという不安もある。

○：今回、様々な意見が出ましたので、これで会議を終了します。

7. その他

事務局より事務連絡。

8. 閉会

以上